

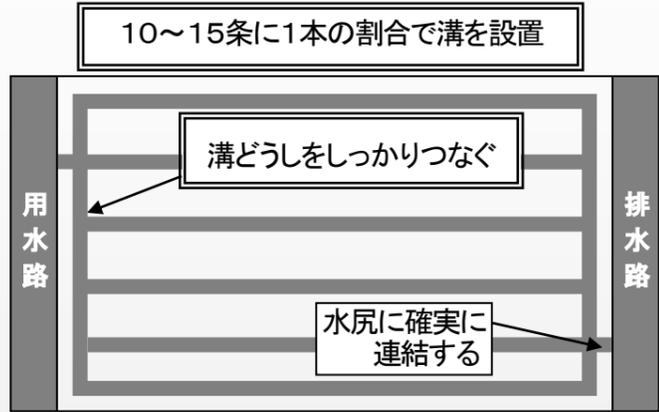
- \* 6月上旬までに溝掘りを実施し、中干しの効果を高めましょう。
- \* 出穂期から20日間の湛水管理に備え、中干しを徹底して田面を固めましょう。

### 1. 溝掘り ~6月上旬までに溝掘りを行い、中干しの準備を!~

「中干し」とその後の間断かん水を効果的に行うため、6月上旬までに必ず溝掘りを行いましょう。

#### <溝掘りのポイント>

- ・田植3週目頃から軽い田干しを行い、泥を落ち着かせる。
- ・溝の間隔は、3~5m(10~15条に1本)が目安です。
- ・水口 ⇄ 溝 ⇄ 水尻は必ず連結する。
- ・水の切れにくいほ場は、設置本数を増やす。



溝掘り



6月1日~10日  
あおば農協管内  
「一斉溝掘り!」

中干し

充実した茎や根を確保!!

### 2. 中干し 田植後4週間までに中干しを始め、確実に田面を固めましょう!

6月に入ると急激に分げつが増加するため、田植後4週間までに遅れず中干しを開始しましょう。また、出穂期から20日間の湛水管理に備え、確実に田面を固めましょう。

#### ① 田植日ごとの中干し開始時期の目安

田植日	中干し開始時期
5月10日	6月7日までに開始
5月15日	6月12日までに開始
5月20日	6月16日までに開始
5月25日	6月20日までに開始

#### 中干しの効果

- ・無効分げつの抑制
- ・土中への酸素供給と根の活力の向上
- ・地耐力の向上

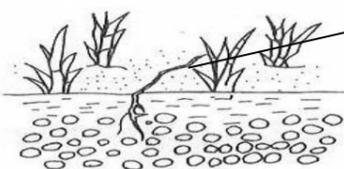


中干しの有無による根量の違い

#### ② 中干しの程度

##### ・水はけの良いほ場

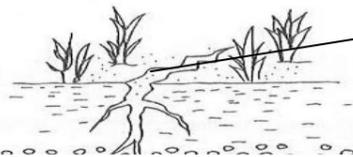
→ 長靴が沈まない程度に干す  
期間は3~5日間程度が目安



田面に小さな亀裂

##### ・水はけの悪いほ場や粘土質ほ場

→ 強めに干す  
期間は7日間程度が目安



田面に大きな亀裂

排水の悪いほ場では、事前に軽い田干しを行いましょう!

#### 珪酸の効果

- ① 根の活力を高める
- ② 茎葉を丈夫にし、倒伏を防ぐ
- ③ 受光態勢を良くし、登熟を高める
- ④ フェーン時に水分の蒸散を防ぐ

### 3. 中間追肥 倒伏防止と登熟を高めるため、積極的に施用しましょう!

◎ エスアイ加里らくだ、PK けい酸を施用しましょう。

動散での施用ができない場合は「エスアイ加里 カリ投げくん」がおすすめです。

肥料名	施用時期の目安	施用量
エスアイ加里らくだ	6月中旬~下旬	15kg/10a
PKけい酸(基肥一発体系のすすめ)		20kg/10a
エスアイ加里カリ投げくん		4kg/10a (200g×20個)

#### エスアイ加里カリ投げくん

##### ◎ パック肥料

- ・湛水にして、ほ場に投げ込みます。
- ・施用の際は、5cm以上湛水にしてから施用しましょう。

うら面に続く

## 4. 除草剤の散布

中期除草剤は、中干し前に散布しましょう！

○中期除草剤(「初期除草剤+中期除草剤」体系の場合)

除草剤名	雑草の種類	使用時期	10a 当たり 散布量	使用上の注意点
レブラス 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後14日～ ノビエ4.0葉期まで	1kg	・湛水状態で散布 (収穫60日前まで)
ワイドショット 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ ノビエ4.0葉期まで	1kg	・湛水状態で散布 (収穫45日前まで)
マメットSM 1キロ粒剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ ノビエ3.5葉期まで	1kg	・稲の5葉期以降に湛水状態で散布 ・15℃以下または30℃以上になると予想される場合は使用しない(収穫60日前まで)
レブラス ジャンボ	ノビエ 広葉雑草	移植後14日～ ノビエ4.0葉期まで	400g (40g×10個)	・湛水状態で散布 (収穫60日前まで)

○雑草が多く残った場合(後期除草剤) ※中干し後も散布できます

除草剤名	雑草の種類	使用時期	10a 当たり 散布量	使用上の注意点
ヒエクリーン 豆つぶ250	ノビエ	移植後15日～ ノビエ4葉期まで	250g	・湛水状態で散布 (収穫45日前まで)
トドメMF 1キロ粒剤	ノビエ	移植後14日～ ノビエ5葉期まで	1kg	・湛水状態で散布 (収穫50日前まで)
トドメMF乳剤	ノビエ	移植後14日～ ノビエ7葉期まで	200ml/10a (希釈水量100L)	・湛水または落水状態で散布 (収穫50日前まで)
トドメバス MF液剤	ノビエ 広葉雑草	移植後15日～ ノビエ6葉期まで	1,000ml/10a (希釈水量100L)	・浅水～落水状態で散布し、3～4日間は 入水、落水をしない(収穫50日前まで)
バサグラン粒剤	広葉雑草 (ホタルイ、オモダカなど)	移植後15～55日	3～4kg	・浅水～落水状態で散布し、3～4日間は 入水、落水をしない(収穫60日前まで)
ノミニー液剤	クサネム イボクサ	移植後30日～クサネム 草丈40cm、イボクサ 茎長30cmまで	50～100ml (希釈水量100L)	・浅水～落水状態で散布し、3～4日間は 入水、落水をしない(収穫60日前まで)

※農薬の使用に際しては登録内容を確認し、草種に応じた除草剤を適期に散布しましょう。  
詳しくは、各地区の営農経済センターへお問い合わせください。

## カメムシ対策 第3回

### カメムシの発生予防について

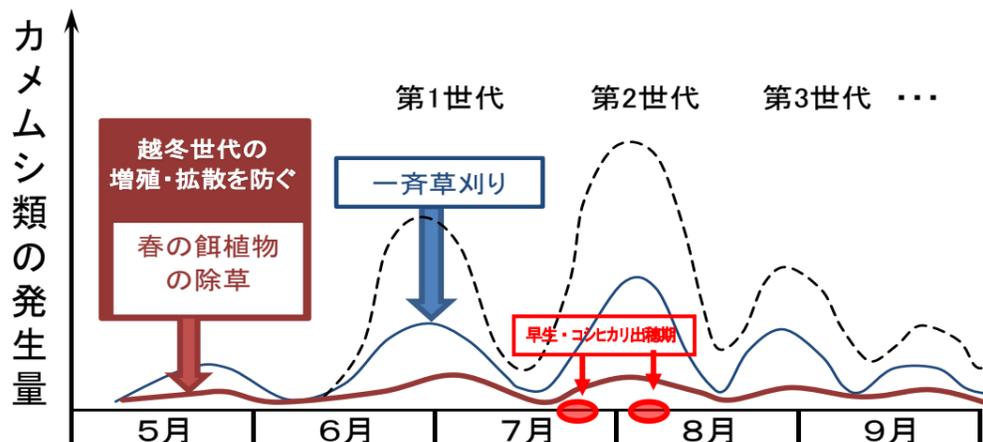
～発生・増殖源となる場所を優先して除草し、拡散を防ぐ！～

#### 1. 春の畦畔などの除草管理でカメムシ類の発生密度を低減する！

- ・幼虫の餌となるイネ科雑草(スズメノカタビラやスズメノテッポウなど)の穂をつけないよう、こまめに草刈りを行う。
- ・または、畦畔などにバスタ液剤、ザクサ液剤などの茎葉処理除草剤を散布する。

除草方法	除草により期待される効果
草刈り (穂をつけないよう管理)	・幼虫はイネ科雑草の葉だけでも発育できるが、穂が無いと幼虫の発育遅延や羽化率が低下する。 ・穂が無いと、成虫の飛来や産卵が抑えられる。
除草剤散布 (バスタ、ザクサなど)	【カメムシ類の密度低減効果が高い管理】 ・幼虫の餌となるイネ科雑草がなくなり、生存ができない。 ・寄主植物がないため、成虫の飛来や産卵を防ぐことができる。 ※ 散布ノズルに飛散防止カバーを付け、風の無い時に散布(水稻などにかからないよう注意)する。

#### 2. カメムシ類の発生活消長(模式図)



初期の発生量を  
小さくすることで、  
以後の発生量が抑えられる！